

第7回熟議『学校選択制』（8月2日）Bグループ 主な意見とまとめ

【主な意見】

（学校選択制のメリットについて）

- 学校選択制のメリットは少ないと思う。通学区域の弾力化として、通学の利便性などの地理的な状況での緩和や部活動等の事由が認められれば、学校選択制のメリット・デメリットがはっきり分かってくるのではないかと思う。
- 保護者側としては、自由に選択させてもらえるという大きなメリットがある。指定外就学の許可基準が緩和されて、親が希望する事由についてカバーできるのであれば、あえて学校選択制だとうたわなくても良い気もするが、現行の基準を基にするのであれば、学校選択制により自由度が上がるのは大きなメリットだと感じる。
指定外就学では許可条件が大きなポイントになり、学校選択制ではその許可条件はないので、自由に希望することができる。指定外就学というのは、ある一定の許可基準に該当しなければ、希望すら出せないのも大きな違いがあると思う。
- 学校選択制になると全くのフリーになるという印象があるが、実際は東京都でも通学区などを前提でやっているのも全くのフリーではない。
- 学校選択制には、許可条件が無い事が大前提だと思う。現在の学校より遠くても隣接の学校を選ぶという自由が与えられる。現行の学校よりも近いという事だけが、学校選択制で希望ができる条件ではないはずなので、現行の指定外就学に関する許可条件とは捉え方が違うと思う。
条件があるならば、敢えて学校選択制にしなくても、現在の指定外就学と何ら変わらないと思う。選択の条件としては、隣接やブロック制などがあるかもしれないが、選択する理由については、保護者側の自由な判断で選べるというのが本来の学校選択制の狙いだと思う。
隣接だったら現行の学校よりも近いといけないとか、きょうだいが行っているからとか、条件を付加するのであれば、現在の指定外就学の運用を弾力化することと全然変わりがなくなってしまうので、やはりそこは保護者側、子ども側の自由度がもっと認められないと意味がないと思う。
- 選択の理由として、ある学校を忌避するという理由で選択されることも出てくることが考えられる。これまで大阪市は、それはいけないということで適正就学ということをやってきたのではないか。
- 学校選択制をやっている区とやっていない区があるというような状況が 24

区のなかで起こるというのはどうかと思う。

- 他都市の主なメリットとしてある特色ある学校づくりがあるが、小学校の場合の特色とは、当然公教育だから、学習指導要領に基づいて全ての子が同じような教育をすることが大前提だが、例えば読書に力を入れることや、音楽集会など音楽に力を入れること、あるいは日記を継続して指導しているとか、学習の重点をどこに置くかということが特色であるだろう。例えば1年生から6年生までの子どもたちが小集団で縦割りと言われる活動に力を入れることなどの生活的なことにウエートを置いてる学校であるとか、あるいは地域の特色としてゲストティーチャーに来て頂くとか、町工場に見学に行くとか、そういった地域の特色を生かすというような事が学校の特色だと考える。

また、学校が切磋琢磨するということについては、やはり学校間の競争ということだと思うが、教育の中身を語る時に競争だけを重視するのは教育としてどうなのかと思う。

学校選択制のメリットとしては、特色で大きく変わることはないので、開かれた学校づくり、学校がより細やかに情報を発信するという面では必要性は出てくるので、学校の情報発信がより細やかに出来るだろうということであると思う。

学校長が特色のために予算を要求するようなことになると、必ずその成果として数的なものが求められることになり、例えば学力テストの点数であるとか、そういうことになる危険性がある。学校教育では、すぐに数字で成果が出てくるのが難しく、むしろ数字で出てこないようなものが大事なことだと思うが、数字に偏るようなことも予想できるので、選択制のメリットとしては難しい面があると感じる。

- 小学校と中学校では学校に求める評価やメリットは多少違うと思う。小学校の場合には、学校そのものの評価で選ぶということはないと思うが、中学校の場合には主にクラブ活動になると思う。

小学校の場合には、どの学校でも平等に同じ、公平に教育がなされるべきであろうという期待が強いので、選ぶ場合は通学の距離や安全性が基準になると思う。中学校の場合は、ある程度広いブロック制なり、全体から自由選択ということに親としての期待があると思う。

- 特色ある学校づくりというのは、先生方が7年単位くらいで異動する中で、先生が発信する特色というのは難しいと思うので、やはり地域的な特色になると思う。

保護者の関心が高まるということについては、これは全く変わらず、学校給食の導入など、どんどん保護者の責任が薄まっていくような感じがするなかで、保護者が安心する学校へ子どもを送り込むことで保護者は余計にノータッチの方向に進むのではと思う。

学校が切磋琢磨するというが、現在もいろいろな規制というか網がかかっているなかで、本当に学校の先生方はよくやっているといると思う。

- 数字で成果を上げるというのは、高校とか塾とかではないので、義務教育では、本当に危険な考えだと思う。

勉強やスポーツが苦手なお子さんもたくさんいらっしゃるし、障害のあるお子さんも地域にはいらっしゃるの、そういうお子さんを排除するような考えは、義務教育であってはならない事だと感じる。出来る子を集めるような学校が増えるのではないかと心配する。

抽選で選ぶのもどうかと思う。どうしても選択した学校へ行きたいというお子さんから、別にどこでもいいけど一応申し込んだというお子さんも同じ抽選になり、結果としてどうしても行きたいというお子さんが抽選で落ちてしまうのは、ちょっと不公平だと感じる。

- 他都市のメリットについては、あくまでも外部から見たメリットであるので、肝心の子どもにとってのメリットがあまり書かれていない。子どもにとって学校選択制というのは、自分の行きたい学校にいけること、それだけがメリットであると思う。

その結果、子どもにとってどういう影響があるかということは、もう少し掘り下げて検討するべきだと思う。

- 中学校は、私立の中学校を選ぶかどうかという事で、現在でも選択をされる立場にたっている。何かの加減でその学校の状況が悪くなり、それを立て直すために努力することは、地域の力を借りることや、保護者の理解を得てやっていくということなので、凄く大きな営みとなるが、学校選択制を導入すると、もうその学校へは行かないでおこうと、少し短絡的になってしまうと思う。

学校選択制のメリットとは何かというと、やっぱり学校間の競争となるが、良い学校と、そうでない学校をはっきりと選択という形で評価に晒すことによって、結果的に切磋琢磨という考え方になっていると思うが、中学校の場合は荒れているということがあったり、進学率であったりするので、結局は塾とか私立の中学校と同じような、半分民営的なものをめざすための仕組、仕掛けであると思う。

- 学校で一番重要な特色というのは一人一人の生徒に先生が目が行き届くということが一番大事だと思う。

小中連携で小学校からこういう子どもたちが上がってくるという情報が事前にあるとないとは大きな違いがあり、事前にその情報がもらえる小中連携が、今非常に安定していて良い状況なので崩したくはないと思う。

- 子ども一人一人がどんなふうに良く育っていくかということを考えた時に、学校選択制は、その子に選ばせるという、その一つのメリットが実現されるだけで、その結果としていろいろと失われるものが多く、影響が大きすぎると思う。